

妊娠4ヶ月以降の死産を証明するために医師・助産師の作成する証書です。

死産証書（死胎検案書）

この死産証書(死胎検案書)は、我が国の死産統計作成の資料としても用いられます。かい書で、できるだけ詳しく書いてください。

記入の注意

← 妊娠週数は、最終月経、基礎体温、超音波計測等により推定し、できるだけ正確に書いてください。

← 夜の12時は、「午前0時」、昼の12時は「午後0時」と書いてください。

← I 欄及びII 欄に関係した手術について、術式又はその診断名と関連のある所見等を中心に書いてください。

死産児の男女別	1 男	母の氏名						
	2 女	妊娠週数	満	週	日			
	3 不詳							
死産があったとき	令和	年	月	日	午前・午後	時	分	
死産児の体重及び身長	体重	グラム	身長	センチメートル				
胎児死亡の時期 (妊娠満22週以後の自然死産に限る)	1 分娩前		2 分娩中		3 不明			
死産があったところ及びその種別	死産があったところの種別	1 病院 2 診療所 3 助産所 4 自宅 5 その他						
	死産があったところ	番地 番号						
	(死産があったところの種別1~3) 施設の名称							
単胎・多胎の別	1 単胎		2 多胎 (子中第 子)		3 不詳			
死産の自然人工別 ◆胎児を出生させることを目的として人工的処置を加えたにもかかわらず死産した場合は「自然死産」とします	1 自然死産 2 母体保護法による人工死産 3 母体保護法によらない人工死産 4 不明							
自然死産の原因若しくは理由又は人工死産の理由 ◆Iの(ア)欄には直接原因又は理由を胎児の側か母の側のいずれかに分けて書き、さらにそれと因果関係のある原因又は理由があれば(イ)欄(ウ)欄と続けて、それぞれ胎児又は母の側に分けて書いてください ただし、胎児又は母の側いずれか決めかねる場合は、母の側に書いてください ◆自然死産か人工死産か不明の場合は、自然死産の欄に書いてください	自然死産の場合			人工死産の場合				
	I	ア 直接原因又は理由	胎児の側	母の側	母体保護法による場合	1	疾患名	
		イ (ア)の原因				母体側の疾患による		
		ウ (イ)の原因				2	理由	
		エ (ウ)の原因				その他		
	II	直接には死産に関係しないが、I欄の経過に影響を及ぼした傷病名等			母体保護法によらない場合	1	疾患名	
						母体側の疾患による		
						2	理由	
					その他			
胎児手術の有無	1 無	2 有 (部位及び主要所見)						
死胎解剖の有無	1 無	2 有 (主要所見)						
1 医師	上記のとおり証明(検案)する			証明(検案)年月日	令和	年	月	日
2 助産師	本証明書(検案書)発行年月日			令和	年	月	日	
	(病院、診療所若しくは助産所の名称及び所在地又は医師若しくは助産師の住所)					番地 番号	号	
	(氏名)							